

海賊対処行動 15 周年記念行事に出席

外務省および防衛省は 11 月 5 日、ミナサルマン港（バーレーン王国）において、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動に従事するため日本を出発した護衛艦「むらさめ」の艦上で、わが国の海賊対処行動 15 周年記念行事を開催し、当協会からは土屋恵嗣副会長のほか、平尾真二常務理事、日本郵船から進藤航海務グループ長が出席した。

バーレーンには米国海軍を中心に有志国の海軍で構成する合同海上部隊（CMF）の本部があるが、式典にはバーレーン政府関係者、CMF に参画する諸国の連絡官など多数の関係者が参加する中でおこなわれた。

在バーレーン王国日本国大使館の岡井朝子大使による挨拶では、15 年におよぶ自衛隊の海賊対処行動における護衛艦の活動では 4000 隻に近い船舶を無事に護衛し、また、航空機による監視活動の成果もあり、各国から高い評価を得ていると述べた。

防衛省からは、海上自衛隊艦隊司令官の代理として出席した航空集団司令官の金嶋浩司海将が挨拶をした。金嶋海将は 15 年間の活動を通じて、海賊対処行動が奏功したと述べると共に、15 年前に初めて P-3C 哨戒機を国外活動に派遣した際の計画担当であり、海賊対処行動開始時からの自身の関わりを紹介するなどした。

来賓からは CMF 司令官の米国海軍 George Wikoff 中將が挨拶し、海賊対処に従事する自衛隊を評価すると共に、特に P-3C 哨戒機を永続的に派遣してきた自衛隊の活動に触れて感謝の言葉を述べた。

10 月に横須賀から「むらさめ」の無事な航海を祈念しつつその出港を見送った土屋副会長は、早川正紘艦長に「1 カ月の航海お疲れ様です。ご安全をお祈りします」と言葉を伝えたほか、任務に赴く隊員達と言葉を交わした。

早川艦長および海上保安庁の松田智紘隊長を含む約 200 名の隊員が乗艦する護衛艦「むらさめ」は、10 月 5 日に出港してから約 1 カ月の洋上訓練を行うなどしてきたが、現在活動中の護衛艦「さみだれ」と交代する。

なお、11 月 6 日には、土屋副会長は岡井大使を表敬し、式典への招待に対して謝辞をのべたうえで、最近の海賊事情のほか、紅海周辺での商船攻撃事案、中東からの資源輸送の重要性などを踏まえ、日本海運のおかれる現状に関する説明を行った。



(右から) 早川艦長、金嶋司令官との懇談



(左から) 早川艦長、金嶋司令官、土屋副会長、
平尾常務、進藤グループ長



挨拶する金嶋司令官



岡井大使と土屋副会長



むらさめ艦上式典



岡井大使を表敬した土屋副会長